

第 63 回日本神経学会学術大会のお知らせ

第63回日本神経学会学術大会
大会長 服部 信孝

開 催 概 要

1. 学術大会会期：2022年5月18日（水）～21日（土）
「幸福100年社会における脳神経内科の展望 ～AI技術との共存に向けて～」をテーマとして、上の日程で開催致します。
2. 学術大会会場：東京国際フォーラム
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
3. 演題募集期間：2021年10月1日（金）正午～11月24日（水）正午
※募集期間の延長はありませんのでご注意ください。
※学生・研修医演題およびメディカルスタッフ演題も同時募集いたします。
演題登録に関する詳細は、決定次第、大会ウェブサイト「演題募集」に掲載いたします。
4. お問い合わせ
【大会長校事務局】
順天堂大学大学院医学研究科神経学
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1
【第63回学術大会運営事務局】
〒102-0075 東京都千代田区三番町2
株式会社コンベンションリンクージ
TEL：03-3263-8688 FAX：03-3263-8687
【日本神経学会事務局】
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-21 一丸ビル2階
TEL：03-3815-1080 FAX：03-3815-1931
jsn-secretariat@neurology-jp.org（学術大会担当）

一般演題について

口演発表とポスター発表を予定しております。

- * 現時点では、国内・海外に関わらず、口演発表、ポスター発表共に現地会場で発表していただく予定です（誌上でのみの発表は予定していません）。
- * 現地発表の有無にかかわらず、前回大会同様に事前に発表動画を作成・提出していただく予定ですので、ご了承の上ご応募ください。

1. 申し込み：申し込みはすべてオンラインにて受け付けます。
2. 演題募集期間：2021年10月1日（金）正午～11月24日（水）正午
※募集期間の延長はありませんので、ご注意ください。
3. 演題要旨作成時の注意
(1) 演題の制限：1演者につき1題とします。但し、共同演者になることは差し支えありません。1施設から多数の申し込みも歓迎いたします。

(2) ご登録いただく項目

◎登録・発表演語：日本語もしくは英語（応募カテゴリーによる言語指定あり）

※基本は、抄録の登録言語が発表演語となるようにセッションを組む予定です。

◎発表形式区分：口演もしくはポスター

◎筆頭演者と共同演者の氏名（日英）：演者数は20名以内

◎筆頭演者と共同演者の所属機関（日英）：所属機関数は10機関以内

◎演題名（日英）：日本語は全角40文字以内，英語は半角100文字以内（スペース含む）

◎抄録：

・抄録は、日本語または英語でご登録ください。（応募カテゴリによって言語指定あり）

・日本語は全角800文字以内，英語は半角1,600文字以内とします。（スペース含む）

・【目的】【方法】【結果】【結論】に分けて簡潔に記入してください。その都度改行はしないでください。改行を行っても、抄録印刷の際に反映されません。

・抄録内容が不完全な場合（誤字、脱字、具体的な数値の不足、【目的】【方法】【結果】【結論】に項目立てされていないなど）、不採用になりますので抄録作成の際に細心の注意を払ってご投稿ください。

- (3) 筆頭演者は本学会の正会員である必要があり、登録時に会員番号およびパスワードを入力していただきます。未入会者は、必ず日本神経学会 HP「入会に際して」をご確認の上、「入会までの手順」に従って、演題登録締切の1週間前までに、入会手続き（入会申込書の送付、年会費の支払い）をお済ませください。入会手続きには1週間～2週間かかる場合がございますので、余裕を持ってお手続きください。演題登録締切の1週間前（2021年11月17日（水））までにご入会手続きが完了していない場合は、ご登録いただいた演題を不採択とさせていただきますのでご了承ください。

日本神経学会事務局 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-21 一丸ビル2階

TEL：03-3815-1080 FAX:03-3815-1931

（受付時間：平日10:00～17:00）

- (4) 応募演題は厚生労働省等による各種関連法令・指針・通知（薬機法、再生医療法、臨床研究法、生命科学・医学系研究指針など）及び所属施設が定めた倫理規定（動物実験等を含む）を遵守すると共に、あらかじめ所属施設等において倫理審査委員会等による審査・承認を得ていることが必要です。詳細は学会ウェブサイトにある「日本神経学会学術大会時の演題の倫理面について」(https://www.neurology-jp.org/gaiyo/pdf/endai_rinri.pdf)をご覧ください。承認の得られていない研究についての演題は、応募することができません。ただし、9症例以下の後方視的検討による症例報告の場合は必ずしも倫理委員会の承認を得る必要はありません。
- (5) 応募演題は、演題を登録した時点において、未発表のものに限ります。他学会で既に発表済みの演題でも、論文発表されていなければ応募可能です（同一抄録は不可、タイトルの変更や症例の追加などで少し内容を発展させてあれば可）。
- (6) 演題の査読を行いますので、抄録本文の中で筆頭演者の所属機関名、及び所属機関が明らかになるような記述や、筆頭演者や共著者が明らかになるような記述（謝辞を含む）は避けてください。
- (7) 薬品名を記載する場合は、必ず一般名を記載してください。薬品の商品名は、使用禁止とします。
- (8) 薬品以外の商品名（HAL® など）を使用する場合には、必ず登録商標やトレードマークを表示方法に従って付記してください。ただし、登録商標やトレードマークは初出のみ付記し、繰り返しは不要です。
- (9) 症例数や実験に用いた動物の数などは、演題登録時点で実際に行った数値を記載してください。
- (10) 一例報告については原則認めません。但し、症候学的、学術的な面などから深く検討されているのであれば、審議の上、採択することがあります。
- (11) 患者の個人情報に抵触する可能性のある内容は、患者あるいはその代理人からインフォームド・コンセントを得た上で、個人が特定できないよう十分留意して発表してください。入院年月日や年齢など、個人が特定される恐れのある情報を含む発表は禁止します。
- (12) 演題登録締切り後、査読委員が査読を行い、採否を決定します。応募演題の内容によっては、採択されない場合もありますが、ご了承ください。

- (13) 英文抄録は登録者が英語を母国語としない場合、原則としてネイティブスピーカーチェックを受けてから提出してください。英文が不完全であるために不採択とさせていただく場合がありますので、ご了承ください。
- (14) 第 63 回日本神経学会学術大会 最優秀演題賞を設けますので、応募希望の方は抄録登録時にご申請ください。応募資格は、登録時、学部卒業後 15 年未満とします。尚、最優秀演題賞への応募演題に関しては、英語での登録を推奨します。表彰式は、5 月 18 日（水）の全員懇親会で行います。
- (15) 演題登録締め切り後の登録内容の修正は一切承りませんので、注意深く抄録をご準備ください。抄録が採択された場合、事務局からの修正依頼もございません。また、学術大会終了後の修正も承りませんのでご了承ください。ご発表いただいた抄録（発表条件を満たした抄録）は、学術大会後に「臨床神経学サプリメント号」（オンライン）に掲載されます。掲載ページには「臨床神経学 62 巻サプリメント号 S-〇〇」という頁数が付与されます。
- 尚、「臨床神経学」の投稿規程に基づき、掲載論文の複写、および転載等の二次的使用に関する許可の権限は日本神経学会に所属いたします。またこれによる使用料は日本神経学会に帰属するものとします。
- 一般演題で応募された先生の中から、海外からの演者との企画シンポジウムに採択させていただく場合がございます。その場合、日本語でご登録いただいた場合でも、英語での発表形式をプログラム委員会からお願いすることがございますので、ご了承ください。

4. 利益相反の開示について

産学連携による臨床研究の適正な推進を図り、科学性・倫理性を担保に遂行された臨床研究成果の発表における中立性と透明性を確保するため、すべての発表者に「利益相反（Conflict of Interest, COI と略す）」の開示を求めることになっております。

演題登録画面の「利益相反の有無」の入力欄にて「ある」「ない」をご選択ください。「ある」の場合、演題登録後に日本神経学会ホームページの「倫理および利益相反に関する規程等」項目にある「別紙様式 3」をダウンロードしていただき、ご記入の上、以下の学会事務局担当者までメール添付もしくは郵送にて送付してください。

COI 提出締切：2021 年 12 月 7 日（火）必着

COI 自己申告書送付先 第 63 回大会 COI 受付係
〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-31-21 一丸ビル 2 階
TEL：03-3815-1080 FAX:03-3815-1931
E-mail：jsn-abs@gol.com

尚、利益相反について、専門的な内容に関するご質問は上の学会事務局までお問合せください。

5. 採否通知

演題登録完了通知メールに記載されている、7 ケタの登録番号をもって、2022 年 2 月中旬頃より当サイトの採択演題一覧ページにて公開いたします。個別にメールでの発表日時等の通知はいたしませんので、必ず当サイトをご確認ください。発表形式も同時に掲載いたします。発表日の希望ならびに、決定後の発表日時変更は承りません。筆頭演者ご自身が日程調整の上、ご発表いただきますようお願いいたします。

6. 口演による発表方法

- (1) PC プロジェクターが使用可能です。スクリーンの縦横比は 9：16 です。
- (2) ビデオプロジェクターの使用はできませんが、PC からの動画投影は可能です。
- (3) 発表データはメディア（USB メモリーまたは CD-R）での持ち込みとなります。但し動画がある場合にはご自身の PC をご持参ください。
- (4) 研究倫理諸規定および個人情報保護の諸規定に遵守してご発表ください。
- (5) 発表資料の中に営利目的の企業や製品のロゴを入れないでください。
- (6) 利益相反の有無に関わらず、ご発表時に利益相反開示についてのスライドをご提示いただきます。詳しくは日本神経学会ホームページの「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。

- (7) 学術大会国際化のため、口演スライドはできるだけ英語で作成するようお願いいたします。但し、英語セッションにおいての口演スライドは必ず英語で作成してください。
- (8) 一般演題の口演発表時間は、一人当たり発表 10 分+質疑応答 5 分を予定しています。(プログラムの都合により若干変更する場合もございますのでご了承ください)

7. ポスター形式による発表方法

- (1) ポスターパネルは縦 210 cm × 横 90 cm の予定です。パネル上部の演題番号のみ、学術大会運営事務局で用意いたします。演題名・氏名・所属は各自で 20 cm × 70 cm 枠に横書きしてください。
- (2) ポスターは、要旨・目的・方法・結果・考察の順に大きくわかりやすく書いてください。文章は 2~3 m 離れたところからでも見えるような大きなポイント文字を使い、図式は一辺が 20 cm 以上の大きさとタイトル・簡単な説明をつけてください。
- (3) 動画 URL の QR コードを提示したい場合は、ご自身で QR コードをご作成の上、ポスター内に印刷、または貼付してください。
- (4) パネル自体に直接文字や図表を書いたり、パネルに糊づけしたりはできません。
- (5) ポスターをパネルに貼りつけるための画鋏は、会場に用意いたします。
- (6) ポスター発表のスケジュール等は、演題採用通知発表後にご案内させていただきます。
- (7) 研究倫理諸規定および個人情報保護の諸規定に遵守してご発表ください。
- (8) 発表資料の中に営利目的の企業や製品のロゴを入れないでください。
- (9) 利益相反の有無に関わらず、ご発表時には利益相反開示についての内容を記載してください。詳しくは日本神経学会のホームページ「学会概要」内、「定款・規則」をご参照ください。
- (10) 学術大会国際化のため、できるだけ英語で作成するようお願いいたします。但し、英語セッションにおいてのポスターは必ず英語で作成してください。
- (11) 一般演題のポスター発表時間は、一人当たり発表 5 分+質疑応答 2 分、総合討論 25 分を予定しています。(プログラムの都合により若干変更する場合もございますのでご了承ください)

8. 日本神経学会 学術大会運営委員 (50 音順・敬称略)

青木 正志 阿部 康二 宇川 義一 加世田ゆみ子 桑原 聡 下濱 俊
高橋 良輔 戸田 達史 服部 信孝 望月 秀樹

9. 第 62 回日本神経学会学術大会 年次学術大会学術委員 (50 音順・敬称略)

饗場 郁子 赤松 直樹 吾郷 哲朗 熱田 直樹 池中 建介 石浦 浩之
和泉 唯信 市川 忠 井上 雄一 猪原 匡史 卜部 貴夫 漆谷 真
大野 欽司 大山 彦光 岡田 洋平 小坂 仁 小野賢二郎 海田 賢一
勝野 雅央 金井 数明 熊田 聡子 小池 春樹 斉木 臣二 佐藤 克也
三條 伸夫 重本 和宏 島田 斉 清水聰一郎 清水 文崇 下 泰司
下畑 享良 神 一敬 鈴木 圭輔 園生 雅弘 高尾 昌樹 高嶋 博
高橋 一司 高橋 正紀 竹下 幸男 竹島多賀夫 田中 亮太 中馬 孝容
徳田 隆彦 永井 義隆 野原千洋子 橋口 昭大 濱田 雅 林 由起子
樋口 真人 平澤 恵理 平田 幸一 松井 秀彰 三木 康生 三澤 園子
三須 建郎 道川 誠 三原 雅史 村瀬 永子 村松 慎一 森 雅裕
矢部 一郎 山野 嘉久 渡辺 宏久 波田野 琢 (事務局長)

10. 学術大会教育プログラムワーキンググループ (50 音順・敬称略)

青木 正志 小野寺 理 北川 一夫 吉良 潤一 葛谷 聡 桑原 聡
古和 久典 神 一敬 砂田 芳秀 高嶋 博 冨本 秀和 波田野 琢
服部 信孝 前田 哲也 森 雅裕 山田 正仁

各種企画のお知らせ

☒…英語セッション

1. 大会長講演 (5月19日 (木) 午後 予定)
服部 信孝 (順天堂大学大学院医学研究科神経学)
2. Plenary Lecture (5月19日 (木) 午前 予定)
池上 彰 (ジャーナリスト)
3. Semi-Plenary Lecture (5月19日 (木) 午後 予定) ☒
Eduardo Tolosa (Hospital Clinic of Barcelona, University of Barcelona, Spain)
4. 特別講演 (5月20日 (金) 午後)
田中 啓二 (公益財団法人東京都医学総合研究所)
5. 2020年度学会賞受賞者招待講演 (5月19日 (木) 午後 予定)
2021年度学会賞 (学術研究部門)
石浦 浩之 (東京大学医学部附属病院脳神経内科)
2021年度学会賞 (診療/教育部門)
神田 隆 (山口大学大学院医学系研究科)
6. Neuroscience Frontier Symposium /ホットトピックス/シンポジウム/新ガイドライン等 (予定)
【Neuroscience Frontier Symposium】
5月18日 (水) 午前
・ New insights of epilepsy research ☒
5月18日 (水) 午後
・ Four repeat tau-related neurodegeneration from basic science to bedside-A rapidly evolving field with critical unmet needs ☒
・ ALS and beyond: cutting-edge research on motor neuron diseases ☒
5月21日 (土) 午前
・ The Perspective of Parkinson Disease in A Centenarian Society ☒
【ホットトピックス】
5月18日 (水) 午前
・ New development in research for risk factors of Alzheimer's disease ☒
・ Stroke Oncology ~古くて新しい emerging clinical problem ~
5月19日 (木) 午前
・ Paradigm shift of migraine management ☒
5月19日 (木) 午後
・ 疾患修飾療法を見据えたアルツハイマー 病の病態基盤について
・ Cutting edge of stroke genetics: what to know & what to do ☒
5月20日 (金) 午後
・ 小児神経疾患の分子機構最前線~成人との懸け橋
・ Pathophysiology in immune-mediated neuropathy: Crosstalk between humoral and cell-mediated immunity ☒
・ 治ります脳神経内科! : 脳神経内科の創薬最前線
・ 疾患概念が拡大するタウオパチーの現在
5月21日 (土) 午前
・ 治療可能な運動失調症~自己免疫性小脳性運動失調症の最近の進歩
・ ALS 治療の展望

【シンポジウム】

5月18日(水)午前

- ・パーキンソン病の病態：基礎研究はどこまでPDの病態を解明できるのか

5月18日(水)午後

- ・未来を切り開く脳神経科学の新技术
- ・BMI技術が可能にする神経疾患治療のパラダイムシフト
- ・注目すべき3つのキーワード —COVID時代のバーンアウト, 厚生労働行政参画, 治療と仕事の両立支援—
- ・Huntington病アップデート
- ・他学会に学ぶ臨床医会の意義
- ・病院医療の先にある神経難病患者の療養を考える～在宅医療に何が出来るか～

5月19日(木)午前

- ・Clinical and pathological heterogeneity in multiple system atrophy [E]
- ・Personalized medicine for ultra-rare disease by nucleic acid drug [E]
- ・脊髄関連疾患の診断と病態トピックス
- ・脳梗塞再発例に挑む
- ・非侵襲的超音波脳刺激の基礎と応用
- ・ナルコレプシーの病態と合併症
- ・脳神経内科医の総合内科診療力：基本領域を目指す脳神経内科に求められること

5月19日(木)午後

- ・Frontiers of animal models for neurodegenerative diseases [E]
- ・Integrated understanding of physiology and imaging based on the genetic dystonia [E]
- ・ICTを活用した神経難病診療とリハビリテーション
- ・神経筋接合部 - 基礎から臨床アップデート -

5月20日(金)午前

- ・Autophagy dysfunction in Alzheimer's disease and dementia [E]
- ・Innovation of non-invasive brain stimulation [E]
- ・神経系疾患を対象とする小児-成人移行医療への取り組み：小児診療科医師と成人診療科医師との連携
- ・多発性硬化症の個別化医療を考える
- ・AIを用いた神経筋疾患の診断と遺伝子治療への応用
- ・Frontiers of Gene and Cell Therapy [E]
- ・周回遅れからの脱出

5月20日(金)午後

- ・21世紀における脳神経内科と精神科の関係を考える
- ・DMT時代の認知症診療に求められる次世代画像診断とその背景
- ・The future of neuromuscular disease registries-The advent of disease-modifying therapy and patient involvement [E]

5月21日(土)午前

- ・新型コロナウイルス COVID-19 感染症とワクチンに関連した神経疾患
- ・シンポジウム：脳神経内科医による医師主導治験の最前線
- ・代謝性・遺伝性末梢神経障害治療の最前線
- ・神経遺伝学の最前線～ロングリード, AIから疾患まで～
- ・難病医療提供体制と地域共生～難病法の見直しを見据えて～

【歴史セッション】

5月21日(土)午前

- ・こんなにも面白い神経学の歴史

【新ガイドライン】

- ・(未定)

7. レクチャーマラソン／教育コース／ International Education Course (予定)

【レクチャーマラソン】

5月18日(水) 午後

- ・中嶋秀人(日本大学医学部)
「自己免疫性脳炎をめぐる最新トピックス」
- ・宮元伸和(順天堂大学医学部)
「グリアは何をやっている？脳卒中におけるグリアの役割」

5月19日(木) 午前

- ・西川典子(順天堂大学医学部)
「明日から使える臨床薬理学からみたLドーパ血中濃度とパーキンソン病のbest medication」
- ・関島良樹(信州大学医学部)
「家族性アミロイドポリニューロパチーの新規治療戦略」

5月19日(木) 午後

- ・坂井建雄(順天堂大学保健医療学部)
「医学史における神経学～温故知新に向けて～」
- ・松本理器(神戸大学大学院医学研究科)
「分子メカニズムからみたてんかんの治療戦略」

5月20日(金) 午前

- ・星野恭子(瀬川記念小児神経学クリニック)
「子供の不随意運動症～基底核の発達から見た運動障害～」
- ・城倉健(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)
「"目が回らない"めまい診療のTips」

5月20日(金) 午後

- ・演者未定
「基礎からわかる数理モデルの考え方」
- ・磯部紀子(九州大学大学院医学研究院)
「脊髄炎を診たら何を考えますか？」

5月21日(土) 午前

- ・新井哲明(筑波大学精神科)
「認知症の精神神経症状を神経病理から理解する」
- ・高尾昌樹(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院)
「脳鉄沈着病 アップデート」

【教育コース(一般)】

5月18日(水) 午前

- ・Mimicsの神経病理—診断基準と画像で十分ですか？—
- ・どんな中枢神経免疫疾患を疑うときにどんな抗体をどんな方法で測定すればいいか：Expert Opinion
- ・神経疾患における痛みを改めて考える - 新たな概念「nociplastic pain」を含めて -

5月18日(水) 午後

- ・症例から学ぶ神経心理学：神経心理を診断に生かす
- ・ベッカー型筋ジストロフィーおよびジストロフィン変異保有女性の診療上の注意とエビデンス構築の必要性

5月19日(木) 午前

- ・脳神経内科診療に役立つ『眠気の診かた』：この症例をどう診るか？
- ・神経内科医が知っておきたい小児神経
- ・今さら聞けない？アルツハイマー病疾患修飾療法の基礎知識

5月19日(木) 午後

- ・アクセプトされる論文の書き方
- ・神経画像が役に立つ二次性頭痛

5月20日（金）午前

- ・ジストニアを究める
- ・脳梗塞治療の進歩と COVID-19 時代の急性期対応
- ・脳神経内科医も知っておくべき臨床研究に関連する各種規制

5月20日（金）午後

- ・片頭痛治療を極める
- ・慢性てんかんと critical care の脳波の相違, 特徴, 判読のケーススタディー

5月21日（土）午前

- ・脳死判定・臓器移植について学ぼう, 語ろう
- ・知っておけば良かった・・・外国人患者さんへの診療 —国際化にむけて—

5月21日（土）午後

- ・大成功する脳神経内科医の開業
- ・神経遺伝・白熱教室：ゲノム医療時代に向けて身につけておくべきミニマムポイント

【教育コース（学生・研修医向け）】5月18日（水）午後

- ・120分ですっきりわかる頭痛診療のオキテ

5月19日（木）午後

- ・キソから学ぼう筋疾患

5月20日（金）午後

- ・運動失調ってなんだろう これ運動失調を克服しよう

5月21日（土）午前

- ・知って得する脳神経超音波～脳神経内科の必須技～

5月21日（土）午後

- ・初学者のための「症候・病態」から学ぶ臨床神経学

【International Education Course】5月19日（木）午後

- ・Neuro-ICU and Dedicated Neurocritical Care Team in Neurology

5月20日（金）午後

- ・Glamping with the Movement Disorder Experts to Keep in Touch with the Coming Era

8. メディカルスタッフポスターセッション（5月20日（金）・21日（土） 予定）
9. 学生・初期研修医セッション（5月21日（土） 予定）
10. 各種共催セミナー
11. 日本神経学会主催セミナー
 - ・第19回生涯教育セミナー「レクチャー」（5月18日（水）午前・21日（土）午後 予定）
 - ・第19回生涯教育セミナー「Hands-on」（5月21日（土）午後 予定）
 - ・第19回専門医育成セミナー（5月18日（水）午前・午後 予定）
 - ・第9回メディカルスタッフ教育セミナー（未定）